



児童が地域住民と災害時の対応を共有

「丸森町未来防災フェスタ」を開催（丸森町立舘矢間小学校）

県教育委員会の「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における実践研究協力校である丸森町立舘矢間小学校では、令和3年12月3日に、「丸森町未来防災フェスタ」を地域住民等を招いて開催しました。フェスタでは、5・6年生が災害時の「自助」「共助」の視点で、総合的な学習の時間で学んだことを発表し、地域住民とともに災害時の対応を共有しました。

このフェスタは、災害時には地域ぐるみで助け合おうとする気持ちを高めることをねらいとし、令和元年東日本台風による丸森町の被害状況や大雨による危険性を専門家から事前に学んだことを踏まえて、児童たちが考えた防災・減災に関する具体的な取組や提案を、地域住民等に発表する形で行われました。

発表した内容は、次年度行われる町総合防災訓練での取組などに生かしていくとのことでした。

また、町や学校が保有している防災グッズも展示され、避難所等で活用が想定される段ボールベッドを使用する体験なども行われました。



児童が行った各グループの発表テーマ【一部抜粋】

- 1 どうすればみんなが避難するか
- 2 どうすれば被害が減らせるか
- 3 早めの避難の準備をするためにはどうすればいいのか
- 4 舘矢間小学校が避難所になったときに自分たちができること
- 5 避難所での生活のしかたと避難するときに必要なもの
- 6 被災地でのボランティア活動はどのようなことをするのか
- 7 ボランティア活動で大切なこと など



紹介 地域と連携した取組に係る参考資料

「みやぎ地域防災のアイデア集」持続可能な防災まちづくりのために

県内13市町の18のモデル地区が取り組んだ事例が、「自主防災組織の体制づくり」、「災害危険の把握」、「避難行動の体制」、「防災訓練」、「住民参加・取組の促進」などのテーマで分類されており、学校と自主防災組織との連携した取組事例も紹介されています。



宮城県復興・危機管理部防災推進課 HP

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/bousai/miyagitiikibousai.html>



社会福祉協議会と連携した防災教育の取組

【柴田町立槻木中学校】

柴田町内の各学校では、毎年度、柴田町社会福祉協議会と連携した防災教育に取り組んでいます。

12月2日、3日には、柴田町立槻木中学校の2・3年生を対象に、柴田町社会福祉協議会の職員の方を講師として、防災の授業が行われました。今年度は、大雨による災害時の対応を学ぶため、2年生は災害図上訓練（DIG）の手法をゲーム形式で取り入れ、3年生ではマイ・タイムラインの手法を取り入れた学習が行われました。

2年生で行った災害図上訓練の手法を取り入れた授業では、「水害が発生したときの隣近所の支え合い」について、仮想の街のマップを使い、その街の住民になりきり、支援する側の立場になってゲーム形式で体験し、自分たちが住む柴田町で水害が起こったら、どのようなことができるかを考えることにつなげました。

グループごとの活動では、街に水害の発生が想定される際、要支援者などに、どのように避難の声掛けをし、避難誘導をしたらよいかを、仮想の街のマップを使い、積極的な意見交換が行われました。



【参考】気象庁では、

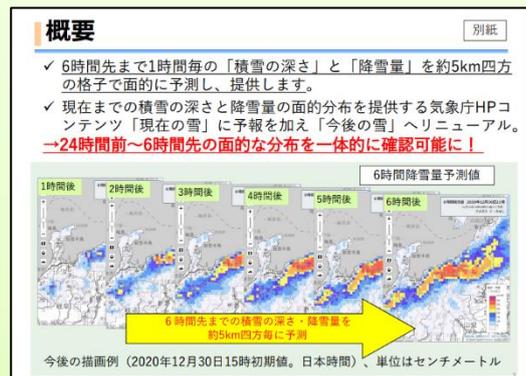
「積雪の深さと降雪量の6時間先までの予報」を開始しています

積雪の深さと降雪量の6時間先までの予報が、本年11月10日から開始されています。

この予報は、気象庁ホームページにおいて、現在までの雪の状況を分布として提供するコンテンツである「現在の雪」にこの予報を加え「今後の雪」へとリニューアルされ、分布を一体的に確認できるようになりました。

積雪の深さと降雪量について、1時間ごとに約5km格子で6時間先までの予報が提供されています。

これから雪の季節になってきますので、校地内の除雪や、雪のときの児童生徒等への事故防止にご利用下さい。



気象庁ホームページ「今後の雪」 → → → <https://www.jma.go.jp/bosai/snow/>

〈活用に当たって〉※気象庁報道発表資料より抜粋

○1時間ごとに更新されますので、最新の予報をご利用ください。

○積雪の深さ及び降雪量について、雪の広がりには適切に予報できる一方で、その量は実際よりも少なめに予報する傾向があります。積雪の深さ・降雪量の分布の傾向を把握するための資料としてご利用ください。

○大雪のおそれがある場合は、気象情報や警報・注意報等が発表されます。最新の気象情報等を併せてご利用ください。